

歓迎

令和3年度(2021年) 新会員の皆さん

このたび、57名の皆さんが加入していただきました。本当にありがとうございます。福岡県退職公務員連盟（以下退公連）が、どのような団体なのか、まだ十分に分かってない方もいるのではないかと思いますので改めてご紹介します。

戦後の混乱の中、退職公務員や、その遺族の待遇改善の動きが全国的に広がりはじめ、昭和22年10月22日に初会合を開催し、その後、日本教育会の協力を得て昭和23年に「全国恩給増額期成同盟」が結成されました。この運動により恩給が増額されました。つまり、公務員の生活を守る運動の始まりです。

当時のエピソードの中で、福岡の初代会長「井口末吉」氏は、マッカーサー元帥と交渉するときに絶えず辞表を懐に忍ばせ（自分の職を賭して）恩給の増額について交渉したとあります。そのような運動をする中、昭和27年に財団法人「日本退職公務員連盟」の設立許可が文部省によっておりました。その点で、大きく労働運動とは違います。また、退職後の生き方についても考える団体です。生きがいをどこに求めるか。人それぞれ価値観が違います。

違いがある中で、退公連は「われらの信条」として5本の柱を持っています。その大きな柱の一つが、公務員であった矜持と面目を堅持するというくだりがあります。その視点で、自らの生き方、社会保障の在り方を考えていく団体です。新しい会員の皆さんと一緒に、理想の社会、国の在り方について考え運動を作っていきます。

私たちは「われらの信条」を基本に活動をしています。時代の変化が目まぐるしい中で、10年先から50年先、いや、新型コロナウイルスや災害が80年から100年というスパンの中で起きていることを考えると、100年後200年後のスパンで物事を見る必要があります。50年後100年後は「もうわしは、死んでいない」と思考を止めてしまいます。そんな国民や政治家が多いように思います。

私たち退公連は「自分の子どもや孫の世代に負の遺産を残さない」という強い意志で望む必要があります。しかし、自分たちは、目の前の生活で精いっぱい100年先のことなど考える暇（心の余裕）がないと言われる。そこを打ち破らないと、光は見えてきません。福岡県退公連は、夢とロマンを絶えず持ちながら皆さんと一緒に取り組んでいきます。

令和3年度(2021年)新会員名簿

全体人数	支部人数	氏名	職種	年齢	性別	支部	全体人数	支部人数	氏名	職種	年齢	性別	支部
1	1	森 宏介	教職	63	男	中央区	30	1	池田 優	教職	60	男	小倉門司
2	1	中島 泰幸	教職	62	男	糟屋	31	1	占部美緒子	教職	60	女	八幡
3	2	水上 知恵美	教職	62	女	糟屋	32	2	奥田 隆也	教職	60	男	八幡
4	3	横尾 優子	教職	61	女	糟屋	33	3	河村 信孝	教職	60	男	八幡
5	4	宮口 光秀	教職	60	男	糟屋	34	4	日高 辰司	教職	60	男	八幡
6	5	今長谷 寛	教職	62	男	糟屋	35	5	峯 隆幸	教職	60	男	八幡
7	6	阿部 勝	教職	62	男	糟屋	36	6	池 浩幸	教職	60	男	八幡
8	7	井浦 政義	教職	61	男	糟屋	37	7	白木原 雄明	教職	60	男	八幡
9	1	宮崎 勉	国公	77	男	筑紫南	38	8	本田 壽志	教職	60	男	八幡
10	2	江崎 雅彦	市職	63	男	筑紫南	39	9	則松 敬二	教職	60	男	八幡
11	1	坂本 智典	教職	60	男	大牟田	40	10	大石 達也	教職	60	男	八幡
12	2	戸塚 俊也	教職	60	男	大牟田	41	1	有高 靖子	教職	60	女	戸畑
13	3	蓮尾 敏之	教職	60	男	大牟田	42	1	古子 鉄男	教職	61	男	若松
14	4	久保田 絵里	教職	60	女	大牟田	43	1	平野 裕子	教職	67	女	遠賀中間
15	5	坂本 和美	教職	60	女	大牟田	44	2	深田 真二	教職	61	男	遠賀中間
16	1	待鳥 高司郎	教職	61	男	柳川みやま	45	3	深田 知佳子	教職	60	女	遠賀中間
17	2	川原 良治	教職	62	男	柳川みやま	46	1	藤井 隆昭	教職	60	男	嘉穂山田
18	1	河口 光二	教職	60	男	八女	47	2	綾部 光浩	教職	61	男	嘉穂山田
19	2	鶴 欣二	教職	61	男	八女	48	1	山本 繁	教職	61	男	飯塚
20	3	高橋 泰朗	教職	61	男	八女	49	2	野 剛文	教職	61	男	飯塚
21	4	池田 博文	教職	61	男	八女	50	3	河内 圭一	教職	61	男	飯塚
22	1	田中 孝親	教職	60	男	三潞大川	51	1	塩川 秀敏	教職	73	男	鞍手
23	2	下坂 浩二	教職	60	男	三潞大川	52	2	神谷 聡	教職	60	男	鞍手
24	3	庄司 保浩	教職	61	男	三潞大川	53	1	道高 修一	教職	60	男	田川市
25	4	福浦 徹	教職	60	男	三潞大川	54	2	平山 喜善	教職	60	男	田川市
26	5	目野 美紀	教職	61	女	三潞大川	55	1	金子 祥二	教職	61	男	田川郡
27	6	境 良美	教職	60	女	三潞大川	56	2	川上 三千夫	教職	61	男	田川郡
28	1	袋野 美幸	教職	60	女	浮羽	57	3	小島 誠治	教職	60	男	田川郡
29	1	山下 嘉成	教職		男	小郡三井							

新会員の皆さん



糟屋支部

今長谷 寛

私は令和元年度に中学校校長を退職し、昨年度町立幼稚園園長、本年度町立図書館副館長を拝命し、本年度から退公連の正会員になりました。現職の時は準会員ではありましたが、退公連については詳しくは知りませんでした。

会が増え、退職された先輩方の活動が現在までいろいろな形で引き継がれ、地域や社会に貢献されてきました。私も退公連を通じ、少しでも貢献できればと思います。



鞍手支部

神谷 聡

退職して、はや半年が過ぎました。現在、私は、荒れ放題だった田畑を整備したり、諸先輩方に農機の操作を教えてもらったりしながら、農業を一から勉強しております。

退職前は口先一つで若い職員を動かしておりま



田川支部

平山 喜善

37年間勤務し、4月に退職しました。現在は添田町の小、中学校で初任者研修の指導教員をしています。これからの教育界を背負う初任者の身になる研修と直るために、私自身日々学び直しています。学級

担任から離れていたのですが、体はきついのですが、児童と接するのは楽しく、充実した毎日を過ごしています。コロナ禍がおさまり、退公連の諸先輩と交流できる日を楽しみにしています。



三潴大川支部

庄司 保浩

令和3年3月をもって38年間の教職員生活を終え、現在は最後の勤務地となった三潴郡大木町で会計年度任用職員として働いています。

退職前は「4月以降の生活は？」「仕事は？」「今後の生き方は？」など色々と考えましたが、これまでの経験を生かせる仕事に就

くことができ、時間的余裕も生まれ、充実した日々を送っています。地方公務員として長きにわたって働かせていただいた感謝の意をもって、今後は地域に貢献していきたいと考えています。

福岡県退職公務員連盟会員の皆様、よろしくお願いたします。



八幡支部

則松 敬二

令和3年3月末に現役を無事に終え、諸先輩方に本会入会をお誘いいただき大変光栄に思います。入会後は、各部の活動や様々なイベントに積極的に参加させていただきたいと思っております。また、諸先輩方の元気なお姿を拝見し、自分も健康

維持を心がけ、できるだけ永く元気に過ごしたいと決意を新たにしました。本会には、私が新採教諭の頃よりお世話になった先輩方もたくさんおられます。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



筑紫南支部

江崎 雅彦

年金受給者の仲間入りとなって

いよいよ今年より年金受給者の仲間入りを果たしました。

現在は、コミュニティセンターの館長として地域の皆様方が健康に豊かな生活ができるよう、また将来を担う子どもたちの夢や希望が広がるような拠点づくりを目指し精を出しております。

さて、私がこの退公連へ加入するきっかけは、大変お世話になりました年金

受給者である先輩からのお誘いを受けてのことでした。そのおかげで地域に暮らされている年金受給者の方々ともいえるような思いや悩みを共有でき、地域づくりのための一助にもなっております。まだまだ現役世代の手を煩わせることがないよう肝に銘じ、退公連の活動に理解を示してまいります。これからもよろしくお願いたします。

《女性部活動紹介》

◆浮羽支部

女性部長 山崎 征子

退公連に加入して10年程になりますが、(早期退職のため)ぎりぎり60代です。これまで、お世話になった先輩会員の方から声をかけていただき、今年度から何も分らないまま女性部の役をすることになりました。

浮羽支部女性部は、会員が50名弱でほとんどの方が70歳以上で、高齢化が進み60代は数少ない状況です。

また、他の地区も同様かと思いますが、昨年から新型コロナウイルスでの行事の中止等も影響し、女性部だけの活動は全くできていません。このような現状ではありますが、地域の先輩会員の方々は、地域活動や福祉活動をしたり、趣味のサークルで活動しています。そのように、どんな時も元気なお姿を拝見するだけで、嬉しくなりますし、大変励みになります。私も、浮羽の豊かな自然を生かした森林セラピーガイドをしています。健康の一助となればと思っております。

今後、新型コロナウイルスが一日でも早く落ち着き、年に一度くらい和やかな会が開けるようになればと願っています。

◆鞍手支部

女性部長 北崎 洋子

鞍手支部は、宮田・若宮・鞍手・小竹の4地区からなり、会員数は94名、そのうち女性会員は48名です。本支部は、女性部としての活動はしておりませんので、若宮地区水原・金丸班の班長としての報告をします。

班長の活動は、年度当初の会員確認と会費の徴収、夏場の素麺販売の案内、要望事項の署名のお願いなど、年間を通して何度か会員の方や、ご家庭の方とお会いする機会があります。そこで、会員の方や近況を聞いたり世間話をして、交流を楽しんでいます。

また、毎月新聞を持っていきますが、なかなかお話をする機会がありません。例年ならば、年に一度は会員が集まり総会後、会食をしながら多くの方とお話ができるのですが、この2年間はそれができず、本当に残念でなりません。退公連の活動は、いろいろな意見があると思えますが、会員同士の交流が、何より大切であると考えています。

年間会費は500円!

歓迎 令和3年度(2021年)準会員の皆さん



準会員とは、退職したあと年金が支給される、公務員の現職の方で退公連の趣旨に賛同し一緒に学習をしていく意思のある方を準会員と位置づけています。

現状としては、現職の方々が「退職公務員連盟」の存在自体を知らない実態があります。そのため、福岡県連では、現職の時から、今、退公連で取り組んでいることや課題について、一緒になって学習していく必要があると捉えています。現職の時は、目の前の公務で退職した後のことを考える時間はないと思いますが、会費は、年間で500円(ワンコイン)です。退職した後のことについて様々な情報を流しますので、ぜひ一緒に学習していきましょう。

令和3年度準会員の現状について

今年度の長期的な戦略

①すべての支部で、学校の校長・教頭先生を準会員に勧誘しており、現在は431名ですが、小学校が712校、中学校が329校、合わせて1,041校あるため、教頭先生も含めて2,082名の準会員の獲得を目標としています。手立てとしては、各地区の退職校長会に働きかけること。つまり現職の時から退公連の取り組みを広報することによって正会員加入へとつなげたいと考えています。本来は、他職域の勧誘をしていくことが本道ですが、経過的な取り組みとして理解していただきたいと思えます。(しかし、筑紫南支部は、果敢に国公や市職を新会員として加入させている)



- ②9月末時点で、準会員が減った支部や増えた支部はありました。全体的には、422名になり、むしろ減っています。
- ③組織化されていない支部は、学校訪問をして足を動かして、訴えていく必要があります。また、組織化されているところは、形骸化しないよう、絶えず繋がりを途絶えさせないことが大切です。
- ④準会員に登録する場合は、1年更新ですので、入会申し込み書をもって入会を確認してください。

支部活動紹介

小倉・門司支部
事務局長 中村 重幸

コロナ禍の中での活動

小倉・門司支部の会員は現在295名。例年、主な活動としては「班長・役員総会(4月)」「敬老祝賀会・会員の集い(9月)」「一日旅行(11月)」「懇親会(2月)」「支部だより発行(年3回)」等ですが、コロナ禍の影響で、昨年度よりほとんど実施できていません。

本年度も「敬老祝賀会」を計画し案内を出しましたが、緊急事態宣言が発令されたため中止を決定しました。10月になってからようやく賀詞および記念品の袋詰めができ、役員が分担し、白寿4名、卒寿11名、米寿9名、喜寿7名、計31名の方々の自宅(遠くは中津市まで)に訪問し、直接お渡しすることができました。郵送なしで実施したのは初めてのことでした。

他の活動も現時点では流動的です。理事会も年7回予定していましたが、6回になりました。それでも「支部だより」は、会員交流の場として、計画通り年3回発行することができています。

今後コロナが収束し、残りの活動の「懇親会」の実施ができることを願っている今日この頃です。このコロナ禍の厳しい日常にあってもノーストレスで充実した日々を送っております。



早良区支部
支部長 高橋 章



会員数は、83名(男62名女21名)21班に分けて活動している。

- ・ **班長会** 4月・8月・2月の年3回実施
- ・ **組織拡大** 5月から8月を重点的に加入を促進
- ・ **記念品贈呈** 自部独自の記念品を90歳以上の会員に配布
年賀状・暑中見舞いハガキの配送
- ・ **定期総会** 5月に開催・研修・懇親会等の実施
- ・ **1日研修(バスハイク)** 11月上旬にバスを貸し切り実施、交流を深める
- ・ **広報誌「さわらの灯」の発行** 年1回2月に発行、会員の声を伝える。
- ・ **役員会** 年6回開催し諸問題を協議する。

現職の頃、お世話になった方からのお誘いを受け、このたび、福岡県退職公務員連盟の会員になりました。私は、今働いています。が、いずれは年金だけの生活になります。だからこそ



小郡三井支部
山下 嘉成

年金受給者の生活を守る運動は大切だと考えます。コロナ禍で人とのつながりが希薄になる中、会員の方々と情報を交換したり、懇親を深めたりすることができればと思っています。

新規採用の頃からお世話になった先輩方に、たくさんのお声かけをいただき、このたび、入会させていただきました。どうぞよろしくお願ひいたします。40年間勤め、この4月か



戸畑支部
有高 靖子

らは、全てを自分の時間とすることのできる幸せを感じています。このようなご時世ではありますが、これまでにできずにいた、ご近所の先輩主婦の方々との交流や友人との小旅行を楽しむに過さず毎日です。



ホームページの開設のごあいさつ 県退公連の財産保管と発信・発展の場へ

福岡県退公連第11代会長 稲田 瑞穂

福岡県退職公務員連盟（以下、県退公連）は、令和3年10月27日県退公連理事会のご承認を得て、ここに念願のホームページを開設いたしました。県退公連の皆様方と、全国の退公連の皆様方にお知らせとご挨拶を申し上げます。どうぞ皆様方、本ホームページの開設を歓迎くださり、是非ご覧ください。

県退公連は70有余年、事務所がありませんでした。そのため事務局長宅がその代行をしてきています。

そのために、歴史を刻んだ先達の貴重な資料や支部活動の財産等の多くが紛失しています。また現在、必死で作成している書類や支部の提出物、日公連からの通達等の保管にも困っていました。

県退公連にとりまして、ホームページの開設は、書類の保管場所が整理され、さらにユニークな事務所の開設といえるほど、一石二鳥とも、一挙両得ともいえる称賛に値する開設となりました。永年の課題が解決され、県退公連に新たな展望と進化発展の起爆剤を潜めたホームページの開設となりました。嬉しい限りです。

ホームページの一部を紹介しますと、日公連の「誇り新たに」の歌声や楽譜があります。北九州市の花火の写真と福岡市の海写真は美しいです。全員で唱和する「われらの信条」もあります。また日公連や各県退公連等のホームページにもアクセスできます。

さらに県退公連の会報、県退公連ニュース、諸会議の文書、各支部の新聞、年金学習などが項目別に整理されています。

県退公連の皆様方の活用をお願いします。また支部の資料等も大量にホームページに保管できます。ご活用ください。

さらに全国の皆様方や日公連とも連携をとり合って、今後さらに充実し、気軽に活用されるホームページなるように努力をしていく所存です。

1 本ホームページ開設の目的

- (1) 県退公連の会員（以下、会員）の一体感（アイデンティティ）を高める。
- (2) 県退公連の業績のライブラリーとする。
- (3) 社会保障制度改革等の退公連活動の柱に対する会員の意識を高める。
- (4) 日公連・他都道府県の退公連・教育関係等のリンクを張り、アクセスを活発にする。
- (5) 会員に情報・資料提供を積極的に行い、それらに対して会員からのフィードバックの機会をつくる。
- (6) 会員の安らぎ・融和・友和の場を創出する。
- (7) 会員加入を促進する。
- (8) 現職の公務員へ情報を提供することによって、退公連の理解を深める。

2 本ホームページの検索方法

Google・Microsoft Edge・Yahooまたはスマートフォンで「福岡県退職公務員連盟」と検索するとホームページが出てきます。

- (1) Google、Edgeとも「検索バー」から「福岡県退職公務員連盟」または「福岡県退公連」と入力すると簡単に検索できるようになりました。
- (2) スマートフォンでも同じように検索できます。



本ホームページの
トップページ



デジタル社会に向けて

福岡県退公連
事務局長 藤崎 嘉丈

福岡県退公連の会員の減少の波をどう押しとどめるか！今の現状では、今まで積み上げた遺産を食いつぶしてしまう危機感を持っていました。

その中で、FORTRAN言語の時代からパソコンを操作していた藤淵さんと出会い、早速ホームページのことをお願いしたところ「待っていました」と言わんばかりに快諾を得ることができました。プロバイダーが続く限り50年後、100年先まで、私たちの取り組みや思いを繋げることができる。夢が膨らみました。



会員のライブラリー 共有の場づくり

福岡県退公連
副会長(HP作成担当)
藤淵 明宏



今年の5月頃、県退公連のホームページ（以下、HP）作成の打診があり、県退公連会員の業績、学習、交流などのいわば「ライブラリー」としてありたいとの意向と捉え、深く共鳴しました。まさに県退公連の財産を蓄積・加工し、その情報を発信し交換し合う「共有の場」と私は解釈しています。

そこで、その2点をふまえ、事務局にご検討していただくためにも、私なりにこれまで蓄積したノウハウを一気に発出し、ご覧のようなHP案を作り、会長・事務局・理事会からの指導・了解を経て発信する運びとなりました。

今後は、SNS等のネット社会をも勘案しながら、会員の皆様の声をお聞きしつつ、充実したHPとなるように頑張ります。よろしくご指導ください。